

おぎゃー献金基金

公益財団法人日母おぎゃー献金基金
専務理事 宮崎亮一郎

活動の原点と60年を超える歩み

「お産を終えた安堵を、寄附というかたちで」

この活動は、鹿児島県伊佐市(旧・大口市)の産婦人科医、遠矢善栄(とおや よしえ)先生の提唱によりはじまりました

近所に暮らす重症心身障がい児の三姉妹を「なんとか助けたい」という強い想いを抱き、支援の仕組みづくりに取り組みました

出産を終えた方々の「ありがとう」の気持ちを、寄附という形で未来へつなげたい

その願いが、心身障がい児とそのご家族を支える原点です

この取り組みを、60年以上、途切れることなく続けてきました



「おぎや一献金運動」提唱者
遠矢善栄先生

活動を支えてきた、本人・その家族と現場の力

その後、各地の医療機関や出産に携わる助産師・看護師のみなさまの協力によって、献金の存在と支援の輪を広げてきました

出産の現場で生まれる「ありがとう」の気持ちを、
寄附という形で未来の支援につなげていく、
無事に出産できたという本人や家族の気持ち

おぎゃー献金は、現場で日々命と向き合う
医療従事者のみなさまに支えられながら、

心身障がい児とそのご家族を支える
活動を続けています



あゆみ その1

心身障がい児施設への助成

通所・入所しているこどもたちのために
必要とする建物等の施設整備費や備品
等の購入費用を助成

(リフト付き車両や大型遊具の整備など)

施設助成金……………上限300万円

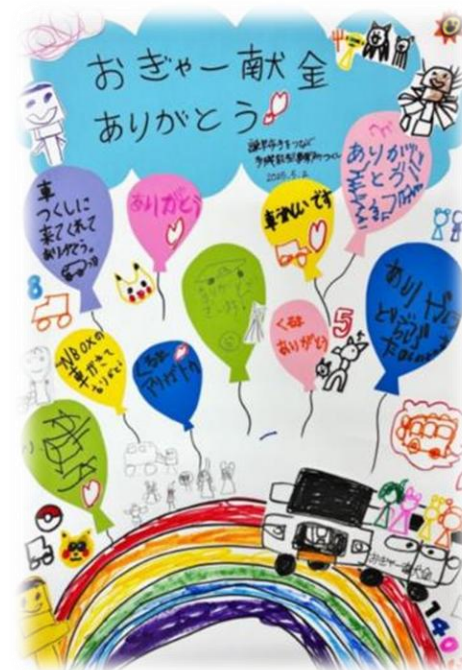
什器備品等の助成金…上限 50万円

60年で、1,349施設に助成



リフト付き車両
(千葉県 重心通所さくら)

施設内改修工事
(山形県 特定非営利活動法人あゆむ)



こどもたちから寄せられた手紙
(長崎県 多機能型事業所つくし、愛知県 豊橋ゆたか学園)



車両贈呈式の記念写真
(青森県 森田学園)



機能訓練用具一式
(北海道 おしま地域療育センター)



送迎車両
(和歌山県 つくしんぼ園)



園庭遊具
(山形県 ひよこ教室)

あゆみ その1-1

低料第三種郵便物承認
(7) 2025年9月16日発行 (増刊)

A J U ひかり

リフト付き福祉車両納車のご報告

ひかりきらきら刈谷

施設長 山口 大輝

この度、公益財団法人日母おぎやー
献金基金様より助成金の交付を受け、
念願のリフト付き福祉車両が無事に納
車されましたことをご報告いたしま
す。

助成金の贈呈式は昨年5月に開催さ
れており、本来であれば昨年中に納車
を予定しておりましたが、車両の生産
等の関係で、納車時期が1年遅れるこ
ととなりました。関係者の皆様には長
らくお待たせすることとなり、心より
お詫び申し上げます。

新しい車両は、子どもが車椅子やバ
ギーに乗ったまま乗車できることに加
え、車内に電源が備え付けられている
ため、医療的ケアが必要な利用児にも
対応しており、様々な子どもを迎え入
れることができます。

以前は、車椅子やバギーを使用して
いる子どもをジュニアシートに乗せ換
えて送迎を行う必要があったり、医療
的ケア児に対応した車両に限られてい
たり等の問題が、ご本人やご家族、支

援者にとって大きな負担となっていま
したが、今回の寄贈により乗車時の負
担が大幅に軽減され、安全で快適な送
迎を行えるようになりました。
ひかりきらきらに通う子どもたちも
新しい車をととても喜んでいて、「今日
はどの車？新しい車？」と帰りの車を
気にして職員に尋ねる子や、新しい車
に乗れるとわかると笑顔になって手を
あげる子等、納車からしばらくは子ど
もたちの間でも大盛り上がりでした。
これからも大切に使用していきます。
ありがとうございました。



リフト付き車両納車の報告
(愛知県 ひかりきらきら刈谷 会報誌より)

あゆみ その2

心身障がいの予防と療育に関する研究助成

その内容

- ・心身障がいの予防、治療等に関し、
特に有意義と認められたもの
- ・胎生期における脳性麻痺に関する病態解明の
独創的な研究で、特に有意義と認められたもの

名古屋朝刊 4/12 (土) 二社

2025年(令和7年)4月12日(土曜日) 12版 全 26

新生児H I Eに新治療法

脳性まひの主要原因

滋賀医科大学(大津市)の研究グループは、赤ちゃんの脳性まひの主な原因として知られる新生児低酸素性虚血性脳症(HIE)の新たな治療法を開発したと発表した。複数のアミノ酸が結合した「ペプチド」を使って、原因となる細胞を除去する方法で、世界初の試みという。

新生児HIEは、赤ちゃんが生まれる前後に、脳が酸素不足や血流不足の状態になることで起こる疾患。出生から当たり1〜3人に生じる脳性まひの主な原因とされ、死に至るケースもある。

HIEによる脳障害の発症は、脳内の免疫細胞「ミクログリア」という細胞の増加が影響していると以前から指摘されていた。脳が低酸素や虚血の状態に陥ると、一部のミクログリアが変化して「炎症性ミクログリア」が脳神経を破壊して脳を萎縮させ、発症につながる。

そこで研究グループは、炎症性ミクログリアのみを除去する方法を開発。炎症性ミクログリアに結合する性質を持つペプチドを発見し、そこにアポトーシス(細胞死)を引き起こすペプチドをつなげた「MG1-KLA」を開発した。HIEの症例を再現したマウスの脳室内に投与すると、脳の萎縮が軽減された。脳障害によって影響を受ける運動機能や、思考や判断に関わる高次脳機能の改善も確認した。

現在の治療では、炎症を抑えるために出生後すぐに体温を33〜34度下げて約72時間保つ「脳低温療法」が行われている。効果に限界がある上、新生児の体温を下げることは体への負担も大きく、新たな治療法はこうした課題を克服できる可能性がある。

記者会見した滋賀医科大学産科学婦人科学講座の辻俊一郎准教授は「より大きな動物での試行や、長期的な副作用を確認し、応用につなげたい」と話した。

滋賀医大 関連細胞除去、「応用につなげたい」

©中日新聞社 著作権は中日新聞社または契約通信社、友好社、外部筆者に帰属します。無断転載、複製、頒布等は著作権法により禁止されています。切り抜きした画像は個人や家庭に準じる範囲でご利用ください。

60年で、847研究機関に助成

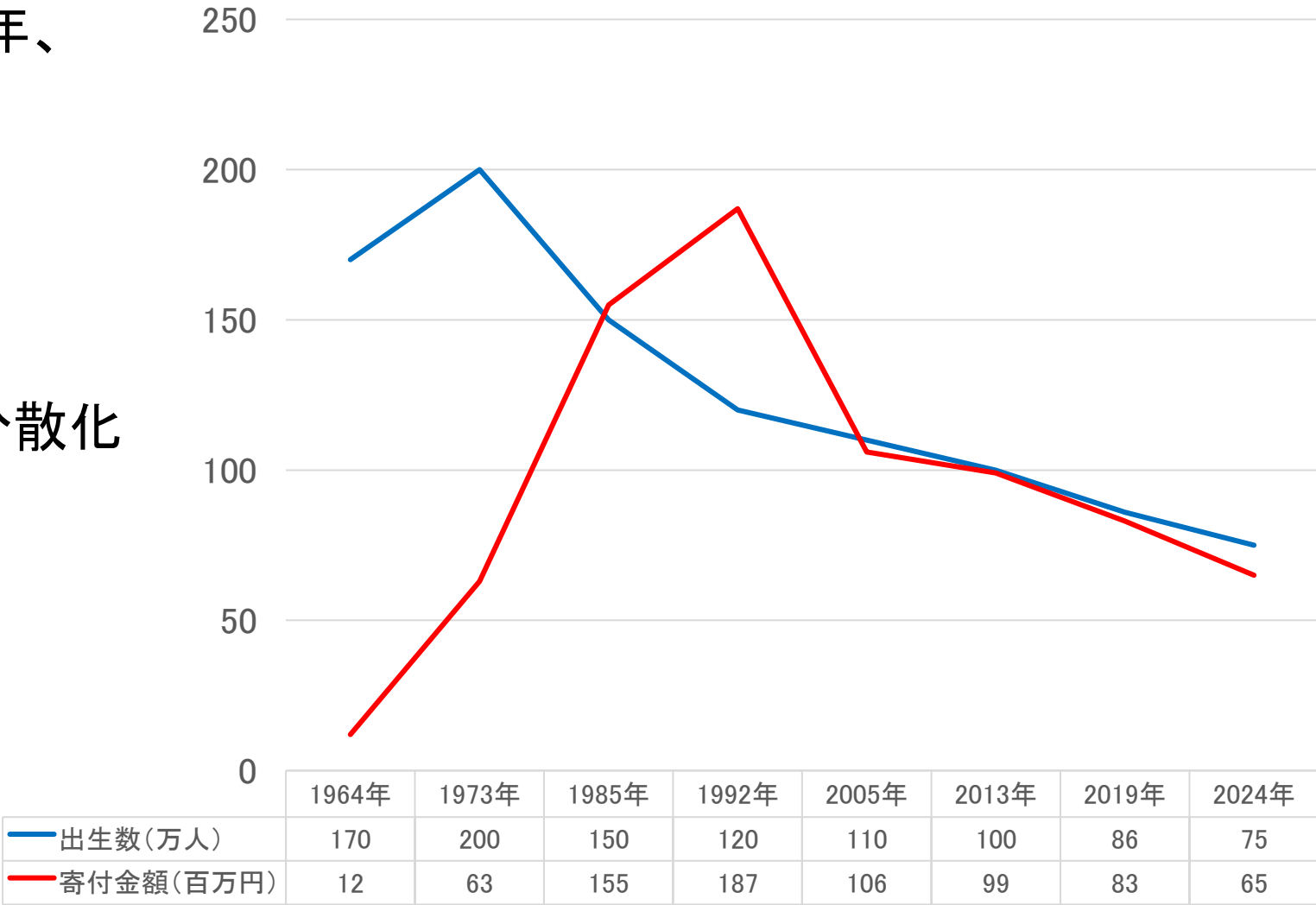
滋賀医科大学へ助成した研究成果に関する
新聞記事

少子化の波と、寄附の減少

おぎゃー献金が発足した昭和39年、日本では年間170万人以上の赤ちゃんが誕生していました
平成4年には寄附金額がピークを迎えましたが、その後、少子化の進行、東日本大震災以降の寄附先の分散化など、寄附金は減少しています

出産数の減少は、寄附の機会そのものが減ることを意味します

出生数と寄附金額の推移(1964年～2024年)



想いを形にするには少し手間がかかる 従来の寄附方法

おぎゃー献金への寄附は、これまで主に医療機関に設置された献金箱や、専用の郵便振替用紙を通じて行われてきました

しかし、医療機関においては、現金を取り扱うことのセキュリティ面の懸念やスタッフの方の対応などが課題となり、実現できていない施設もあります
また、妊娠中や出産直後の方にとっては、外出を控えたい時期であることも多く、「寄附したい」という気持ちがあっても、ATMに足を運ぶなどの物理的な障壁が行動の妨げとなってしまうことがあります

A sample of a Japanese postal remittance form (郵便振替用紙) for Ogyaerikinsu. The form is white with red and black text. It includes fields for the remitter's name, address, and the amount to be transferred. The amount is written as '001408' and '59434'. The form also includes a section for the recipient's name and address, and a section for the remitter's signature and stamp. The form is titled 'おぎゃー献金' and '郵便振替用紙'.

善意をもっと気軽に、もっと身近に届けられるしくみが必要！

社会の変化に寄り添う、新しい寄附のかたち

近年、少子化やキャッシュレス化が進む中で、
寄附のあり方にも変化が求められています

より多くの方に気軽にご支援いただけるよう、
QRコードを活用した寄附の仕組み
を導入しました

スマートフォンから簡単にアクセスできる
この仕組みは、「寄附のハードルを下げる」
新しい一歩です

今後も、社会の変化に寄り添いながら、
支援の輪を広げてまいります



よりわかりやすく、届けるために

私たちは現在、ホームページの
全面改修を進めています

寄附の方法や活動内容を、
よりわかりやすく、
より多くの方に届けられるように

スマートフォンからの閲覧にも対応し、
QRコード寄附との連携も強化しています

今後は、支援先の様子なども発信しながら、
「支援の輪が見える」情報発信を目指
します



<https://www.ogyaa.or.jp>



支援の輪は、企業にも 社会全体で支えるしくみへ

多くの企業からの賛同！

CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)やSDGs(Sustainable Development Goals:より良い世界を作るための目標)への取り組みの一環として、

- ・自動販売機の売上の一部を寄附に充てる
- ・妊婦さん向け医療用品や出産祝い商品の売上の一部を寄附に充てる
- ・クレジットカード利用で貯まるポイントを寄附に活用する
- ・社内イベントの収益を寄附に充てる

企業の皆さまからは、「実際に自分が出産・子育てを経験し、この活動の原点に共感した」

「助成先のお子さんたちの笑顔をみることができ、今後もより一層の協力していきたい」といった声も寄せられています



その気持ち、イマすぐカタチへ

60年以上、たくさんの「ありがとう」が
寄附というカタチで集まり、
心身障がい児とそのご家族を支える
活動が続けてきました

これからも、
社会の変化に寄り添いながら、
支援の輪を広げてまいります

ぜひ、
皆さまのご協力・ご支援をお願いいたします

その気持ち、イマすぐカタチへ

